

ウクライナの障害者とその家族を支援するために今すぐ行動しよう

(EASPD*ニュースレター2022年3月11日号より)

ウクライナに住む270万人の障害者の大多数は、最低限のシェルターさえも利用できないという、安全が著しく脅かされた状態にある。にもかかわらず、ウクライナにおける戦争に対する政治的・人道的対応において、障害者は優先されていない。EUやその他の機関は、この問題に取り組むための具体的な資金調達と行動を起こす必要がある。

以下は、EASPDが本日、欧州障害フォーラム、インクルージョン・ヨーロッパと共催で行なった、ウクライナに関する記者会見から、EASPDが収集した主なメッセージである。

欧州障害フォーラムによると、ウクライナには270万人の障害者がおり、また、インクルージョン・ヨーロッパによれば、知的障害者は約26万1,000人であると推定されている。

ウクライナ障害者会議議長ヴァレリー・スシケーヴィチ (Valery Sushkevych) は、次のように述べた。「人道的危機の中に危機がある」。高層住宅の16階に住む障害のある女性から「ヴァレリー、私はたった一人だ、ここから連れ出してくれ、私の命を救ってくれ」と電話があったことを紹介し、多くの障害者が支援なしでは安全に移動できない危険な状況に置かれていることを示した。最後に「各国、EU、国際機関は、ウクライナの障害者のために特別な資金を拠出して欲しい」と呼びかけた。

ウクライナ知的障害者NGO連合のユリア・クレペッツ (Yuliaa Klepets) は、「私は、自閉症で行動障害のある成人した娘と一緒に首都のキエフにいる」と述べた。「現在、私たちはキエフを離れることができない。82歳になる私の母も一緒にいる。彼女は動くことができない。私たちは地下の防空壕に行くことができない。どうか私を信じて欲しい。このような状況にあるのは私たちだけではないことを。キエフの街中に、ウクライナ全土に、私たちと同じ状況にある人がたくさんいる」。

同じくウクライナ知的障害者NGO連合のライサ・クラフチェンコ (Raisa Kravchenko) は、「私たちのNGOリーダーの一人には自閉症の息子がいて、1時間以上彼をひとりにしてはおけない。つまり、彼女は、彼の薬を買うための列、スーパーマーケットの列、銀行のATMの列に並ぶことができないため、必要な薬、食べ物、お金を手に入れることができない。このような基本的な生活の営みにさえ、彼女は助けを必要としている。また、重度の障害のある人たち、親が高齢である人たちは、ウクライナから出られないことも明らかである。移動は極めて困難であり、かつ長距離である」と語った。

国際障害同盟および欧州障害フォーラムの会長であるヤニス・ヴァルダカスタニス (Yannis Vardakastanis) は、「戦争が始まって以来、障害者は脅威の高まりに直面しており、見捨てられ、暴力、傷害、死のリスクが増大している。避難支援へのアクセス、情報へのアクセス、緊急避難所へのアクセスの欠如がある。同時に、自力で避難できた障害者が近隣諸国に到着した際、十分な支援が受けられないという問題もある。この人々への支援の多くは、各国政府や人道支援団体ではなく、障害関係団体から行われている。このようなことはあってはならない。私たちは、解決策の一部になりたいとは思いますが、それが解決策のすべてとはならない。私たちはEUに対し、障害者とその家族に対する人道的支援のための具体的な資金拠出を指示するよう要請する」と述べた。

ウクライナから避難しようとしている障害者の状況について、欧州障害フォーラムの事務局長であるグンタ・アンカ (Gunta Anca) は次のように述べた。「障害者が安全に避難するために、支援サービス団体は、例えば、リヴィウやポーランドとの国境から遠い国で提供されている安全な避難場所まで、障害者が移動できるよう支援するボランティアが緊急に必要である」。

インクルージョン・ヨーロッパのディレクターであるミラン・シュヴェレパ (Milan Šveřepa) は、「食料、水、薬、その他必要なものを、入所施設で暮らす障害のある人や家族に届けることが急務だ。これらの施設には3万人の成人障害者がいる。戦争から逃れてきた人々の約1割は障害のある難民である。彼らは、リハビリテーション機器やその他多くの支援手段を必要としている。障害団体やその他の NGO は、ウクライナ国内や隣接諸国でとてつもなく素晴らしい活動を行なっている。彼らは、各国、EU 機関、人道支援団体から、的確に調整された支援を必要としている。そして何よりもまず、ロシアは、ウクライナの一般市民に対する戦争を即刻停止しなければならない」と述べた。

最後に、欧州障害者サービス事業者協会 (EASPD) 事務局長マヤ・ドネバ (Maya Doneva) は、「私たちが本日聞いた証言は、私たちが今何をすることが必要かを特定するための基礎となるものだ。私たちが何を必要としているかは極めて明確だ。私たちは、すべての人、市民、団体、とりわけ公的機関や人道支援団体に、ウクライナで今も活動している障害団体、および隣接国で活動している NGO を支援するよう強く求める。欧州委員会の「欧州における難民のための団結した行動 (CARE)」に基づく行動は基本だが、現場で活動する NGO に今日、明日、今すぐに資金を提供すること、行動を起こすことに集中しよう」と強調した。

*欧州障害者サービス事業者協会 (European Association of Service providers for Persons with Disabilities, EASPD) は、1996年に設立された非営利の欧州ネットワーク組織で、現在2万人以上の障害者への社会・医療サービスを提供する団体が加盟している。EASPD は、教育、雇用、個別支援の分野において、国連障害者権利条約の原則に沿った効果的で質の高い障害者関連サービスを提唱しており、障害者だけでなく社会全体にも利益をもたらしている。